

## 福祉サービス第三者評価結果報告書(公表用)

## 【受審事業所情報】

事業所名称	なかよしすみれ保育園
運営法人名称	社会福祉法人大阪福祉事業財団
福祉サービスの種別	保育所
代表者氏名	理事長・寶 徳左 / 園長・谷口純子
定員(利用人数)	90名(利用人数・127名)
事業所所在地	〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目20番80号
電話番号	(06)6931-3350
FAX番号	(06)6931-8637
ホームページアドレス	http://baby-sumire.jp
電子メールアドレス	sumire-b@muse.ocn.ne.jp

## 【評価機関情報】

第三者評価機関名	財団法人大阪保育運動センター第三者評価事業室	
大阪府認証番号	270042	
評価実施期間	2009年11月10日～2010年3月15日	
評価結果決定年月日	2010年3月15日	
評価調査者氏名(役割)	0801C026	( 運営管理、専門職 )
	0701C046	( 運営管理、専門職 )
	0701C083	( 運営管理 )
	0701C025	( 運営管理 )

## 【評価結果公表に関する事業所の同意の有無】

評価結果公表に関する事業所の同意の有無	(有)
---------------------	-----

## 第三者評価結果の概要

### 評価機関総合コメント

なかよしすみれ保育園の経営主体である大阪福祉事業財団の歴史は1946年から始まっています。財団の綱領の中には「すべての施設と事業は、国民の人権と幸せを守るためにあります。わたしたちは、常に利用者・国民の立場に立ち、日本国憲法に明記された生存権・基本的人権を守り発展させる事業と運動を進めます」と明記しています。城東区すみれ(古市)地域にはこの法人が経営する病院、高齢者施設、障害者施設、児童館、乳児院、病後児ケアルームと当保育園と隣接保育園の二つの保育園があり、まさに人間の生涯を網羅する施設が1つのエリアを形成しています。長い歴史と実践のなかで地域からもたよりにされ様々な相談が寄せられ、住民や利用者の信頼を築いています。なかよしすみれ保育園は、その法人施設としての特徴と隣接する病院や他施設と連携できる立地条件を生かし、豊かな保育活動を進めています。2つの保育園はもともと乳児(ゼロ歳から2歳)園、幼児園(3歳から5歳)として役割分担して保育事業を行っていました。その30年を超える歴史と実績の上に、地域の要望に応えて、両園ともゼロ歳から就学までの保育園に発展しました。

乳児保育園は8年前に地域・保護者からの就学前までの保育園にしてほしいという切実な要求に応えるため、2002年分園ひまわりを開設し、03年には3歳児保育を、2007年4歳児保育、2008年5歳児保育を開始し、園名を「なかよしすみれ保育園」として新しい出発をしました。

なかよしすみれ保育園のハンドブックには「処遇憲章」として「こどもが喜んで通える保育園をめざします。親が安心して子どもをゆだね、働ける保育園をめざします。職員が生き生きと働き続けられる保育園をめざします。地域の中に役立つ保育園をめざします。」と明記しています。その内容を職員の共通のねがいとして確認しあい、法人の理念も生かして日常の保育に取り組んでいることは、在園児へのきめ細やかな対応とともに、保育園として独自に「地域福祉計画」をもち「赤ちゃん教室」「すくすくキッズ」など地域の子育ての要求に積極的に応えている姿からも伺うことができました。

今後、隣接する「すみれ保育園」「すみれ乳児院」などとの連携をいっそう充実し、今日の子ども問題の解決への発信など大規模法人内の保育園の特色を生かした事業の発展に期待します。

### 特に評価の高い点

0歳児～就学前までの保育の継続を願う地域要求の実現など、園長はじめ全職員が力を合わせて地域の切実な要求を真摯に受け止め実現に努力している姿勢は高く評価できます。職員ヒアリングの中で職員自身が、就学前までの保育実現を意欲的に取り組み、同時に0歳児の途中入所の要求にも積極的に応えるために職員が知恵を出し合い、努力してきたことを自らのよきこびとして語っていたことは、住民の切実な願いに精一杯応えて行こうとするこの保育園の社会的役割の自覚の表れだといえます。

可能な限りの施設改善の取り組んだところですが、限られた施設構造の中でも、手作りおもちゃや豊富な教材、「ままごとハウス」の設置など子どもが落ち着いてごっこ遊びができる環境づくりや、屋上園庭の整備など子どもたちの遊びの空間を広げることと、生活の場の確保について様々な工夫がなされていることも評価できる点です。

食育計画を作成して調理師、保育士が協力し合って豊かで充実した給食の取り組みを実施し、同時に家庭との連携による食育にも力を注いでいます。日々の献立のレシピを給食の展示の横において保護者が持ち帰れるようにし、また翌日の献立の野菜を展示して「食」への関心を高める努力をしています。毎月の「食事だより」で様々な献立の作り方を丁寧に紹介し、子どもたちが育てた屋上菜園での収穫野菜を調理した内容を保護者に伝たり、食事についての保護者の悩みや質問にも丁寧に答えたりしています。

保護者が安心して子どもを託していることが保護者アンケートからも伺うことができました。各年齢にふさわしい活動、様々な経験を体験していることなど、日々の子どもたちの様子が、毎日の保護者連絡板、個人連絡帳を通してきめ細かく伝えられています。保護者との緊密な関係作りに朝夕保育を担当する保育士が丁寧に対応していることなども、保護者との信頼を一層深めています。

## 改善を求められる点

1972年に乳児保育園として今の園舎が建設され、2000年に改修（定員増を見通して）2008年より5歳児までの保育所になりました。建物の真ん中にあるホールは機能的な活動の場としての役割を果たしていますが、ホールで弾くピアノの音や子どもの声が保育室に響く事があります。ホールを使うときの保育の工夫が望まれます。

分園の1階保育室を少し広げる工夫する事により、月齢の低い0歳児の2回睡眠の保障がより充実できると思います。

中・長期計画には建て替えが具体的に明記されており、検討委員会を発足する予定のようですが、当面の設備面の改善もよく検討し、保育をより一層充実されるよう期待します。

## 第三者評価に対する事業者のコメント

大阪福祉事業財団の綱領前文にある「財団のすべての施設と事業は、国民の人権と幸せを守るためにあります」という精神に基づき、子ども達の発達保障と、働く父母を支えることを基本にして、なかよしすみれ保育園は38年間発展してきました。今回、第三者評価項目を一つひとつ確認することで、日々の保育を振り返ることができ、管理面での充実や豊かな保育実践の確信となりました。

また、第三者評価機関にも高く評価いただき、今後の励みになりました。しかしまだまだ不十分で、改善し検討していかなければならない点も評価機関よりご指摘を受け、明確になりました。保護者の皆さんにもあたたかな回答をいただき感謝でいっぱいですが、より期待に応えられるよう、園長を先頭に職員集団で努力していく決意です。今後もこの評価を真摯に受け止め、よりよい保育を全職員で実践していきます。

## 評価細目の第三者評価結果

### 児童福祉分野の評価基準

判 断 基 準 項 目	評価結果
<b>評価対象 福祉サービスの基本方針と組織</b>	
- 1 理念・基本方針	
- 1 -(1) 理念、基本方針が確立されている。	
- 1 -(1)- 理念が明文化されている。	a
- 1 -(1)- 理念に基づく基本方針が明文化されている。	a
- 1 -(2) 理念や基本方針が周知されている。	
- 1 -(2)- 理念や基本方針が職員に周知されている。	a
- 1 -(2)- 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	a
<b>評価機関コメント</b>	
<p>理念や基本方針は法人ハンドブックや保育園のホームページならびに、「園のしおり」や「事業計画書」に明記されています。また、入園する保護者には「園のしおり」を用いて説明をし、保育園の基本方針や保育の進め方について理解してもらうための努力がされています。さらに、進級にあたっては、在園の保護者に毎年「園のしおり」を配布し、その年度の保育方針について理解してもらうように努力をしています。</p> <p>職員への周知という点では、「職員ハンドブック」や「事業計画書」に法人の綱領や処遇憲章を明記し、前期・後期の2回の総括会議や職員会議、保育内容委員会や給食委員会などの各委員会の議論の中で周知を図っています。</p>	
- 2 計画の策定	
- 2 -(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	
- 2 -(1)- 中・長期計画が策定されている。	a
- 2 -(1)- 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	a
- 2 -(2) 計画が適切に策定されている。	
- 2 -(2)- 計画の策定が組織的に行われている。	a
- 2 -(2)- 計画が職員や利用者等に周知されている。	a
<b>評価機関コメント</b>	
<p>施設整備計画については、5年間に行うもの、中・長期的に行うもの、新規に取り組むものと分けて具体的な計画が策定されています。隣接するすみれ保育園や同じ建物にある乳児院との協議を進めながら、施設の有効利用ができるよう配慮もしています。</p> <p>長期的には2015年建て替え検討委員会を立ち上げ、2020年を目標に関目施設連絡会での土地問題の論議を経て地域の保育要求に応えるべく、定員を120名に増やしていく計画を策定し、職員とともに進めていく予定もっています。</p> <p>また、事業計画には管理運営、子育て支援、保育内容に分けた具体的課題が明記されています。</p>	

## - 3 管理者の責任とリーダーシップ

- 3 -(1) 管理者の責任が明確にされている。

- 3 -(1)-	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a
-----------	---------------------------	---

- 3 -(1)-	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	a
-----------	--------------------------------	---

- 3 -(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。

- 3 -(2)-	質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	a
-----------	------------------------------	---

- 3 -(2)-	経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	a
-----------	----------------------------------	---

## 評価機関コメント

職員ハンドブックに組織機構図と職務分掌について明文化しています。職務分掌については分掌項目について具体的にわかりやすく書かれています。管理職は園長、事務長ですが、主任を3名おき、主任の役割について、現場のコーディネーターと事務長の補佐と位置づけを明確にして全職員に知らせ、それぞれの役割を積極的に進めています。

園長として保育園のホームページに「笑顔いっぱい」というコーナー持ち、園長のコメントを書き込んで地域や保護者へのメッセージを発信するなど、リーダーシップを発揮しています。

また、質の向上に向けて、2009年度には大阪福祉事業財団の5ヶ所の保育園で1週間ずつ主任が交代で研修する取り組みをされ、互いの園にとっても大きな学び合いの場となっていることは評価できます。今後法人間での人事交流などの取り組みが期待されます。

## 評価対象 組織の運営管理

## - 1 経営状況の把握

## - 1 -(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。

- 1 -(1)-	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	a
- 1 -(1)-	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a
- 1 -(1)-	外部監査が実施されている。	a

## 評価機関コメント

さまざまな事業を行う福祉施設を多数もつ法人として地域に長く存在していることから、地域住民からたえず福祉サービスに対するニーズや潜在的利用者の状況が伝えられています。法人が中心になり地域で開催している「福祉まつり」なども、ニーズ把握の機会となっています。法人本部が経営状況の分析を行い、施設としても入所希望者の状況などからたえず課題を把握する努力を行っています。

地域に新しい大規模保育園なども開設されており、法人として中・長期計画への職員・利用者の参画を促し、経営環境の変化にいつそう適切に対応することを期待します。

## - 2 人材の確保・養成

## - 2 -(1) 人事管理の体制が整備されている。

- 2 -(1)-	必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	a
- 2 -(1)-	人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	b

## - 2 -(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

- 2 -(2)-	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	a
- 2 -(2)-	福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a

## - 2 -(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

- 2 -(3)-	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
- 2 -(3)-	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	a
- 2 -(3)-	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a

## - 2 -(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。

- 2 -(4)-	実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	a
- 2 -(4)-	実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	a

## 評価機関コメント

乳児園から幼児を含む園に発展させた経緯をふまえて、その課題を遂行する人材の確保と配置、養成に努力していることが、職員ヒアリングなどでも伺えました。法人独自の職員一人ひとりの自己評価に基づき、職員全体の状況や課題を管理職集団（園長・事務長・主任）で組織的に把握し、職務分担も毎年見直すなど努力しています。なお、実施している内容を文章化して客観的基準の充実をはかってください。

職員の就業状況への配慮も個人の実情に応じて柔軟に対応し、健康対策委員会（管理者・職員・組合代表）を設け、法人では産業医とも連携し、働きやすい職場環境づくりに努力しています。

職員の研修についても法人独自のもの、外部の研修など経験年数などに応じてきめ細かく実施していますが、配慮を要する子どもたちが増えていることから、いつそう的確な研修計画と研修の実施によって人材養成を充実されることを期待します。

## - 3 安全管理

- 3 -(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。

- 3 -(1)-	緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a
- 3 -(1)-	利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a

## 評価機関コメント

職員ハンドブックの中に危機管理マニュアルや危険箇所チェックリスト、事故報告書、ヒヤリハット報告書も入っており活用されています。地域の要求を精一杯受け入れ、施設活用なども工夫と努力が行われていることは保育観察でもわかりました。気がついたことはすぐに実行に移す園長のリーダーシップと意欲的な職員の資質を生かして、いっそう施設整備の改善と生活空間の確保や安全管理の充実にとりくまれるよう期待します。

## - 4 地域との交流と連携

- 4 -(1) 地域との関係が適切に確保されている。

- 4 -(1)-	利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	a
- 4 -(1)-	事業所が有する機能を地域に還元している。	a
- 4 -(1)-	ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a

- 4 -(2) 関係機関との連携が確保されている。

- 4 -(2)-	必要な社会資源を明確にしている。	a
- 4 -(2)-	関係機関等との連携が適切に行われている。	a

- 4 -(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。

- 4 -(3)-	地域の福祉ニーズを把握している。	a
- 4 -(3)-	地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a

## 評価機関コメント

「赤ちゃん教室」「すくすくキッズ」など年齢に応じて親子で参加できる取り組みを毎月開催し、地域しんぶん「なかよし通信」も年6回発行し、園のホームページも充実させるなど、地域との関係づくりが精力的に行われ、地域からも喜ばれています。長年の福祉活動の中で培われた地域との信頼関係が豊かに発展し、中高生の保育体験の受け入れや、大学生が毎週ボランティアで来てくれているなど、歴史と厚みを感じる地域との交流と連携になっています。

## 評価対象 適切な福祉サービスの実施

## - 1 利用者本位の福祉サービス

- 1 -(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
- 1 -(1)-	利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	a
- 1 -(1)-	利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a
- 1 -(2) 利用者満足の上昇に努めている。		
- 1 -(2)-	利用者満足の上昇を意図した仕組みを整備している。	a
- 1 -(2)-	利用者満足の上昇に向けた取り組みを行っている。	a
- 1 -(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
- 1 -(3)-	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a
- 1 -(3)-	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	a
- 1 -(3)-	利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a

## 評価機関コメント

事業計画や園規則に利用者支援計画を詳細に明記しています。プライバシー保護に関する規定・マニュアル等が整備され、保護者に配布して確認しています。利用者からの保育園への要望についてアンケートをとり、全職員に迅速に報告・検討して利用者の要望に対応をしています。また内容に応じて職員の担当を決め、個々に懇談をして利用者に誠実に応えています。苦情解決窓口の設置を提示して園のしおりで保護者に知らせ、苦情内容については職員会議で報告し、職員全体への周知を迅速に行い、保護者からの意見等に対応マニュアルを整備して、常に利用者満足の上昇に努めています。

## - 2 サービスの質の確保

- 2 -(1) 質の上昇に向けた取り組みが組織的に行われている。		
- 2 -(1)-	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a
- 2 -(1)-	評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	a
- 2 -(1)-	課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a
- 2 -(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		
- 2 -(2)-	個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	a
- 2 -(2)-	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
- 2 -(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		
- 2 -(3)-	利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a
- 2 -(3)-	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a
- 2 -(3)-	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a



## 評価機関コメント

月1回の保育会議、年2回の保育の総括会議等で保育実践をまとめ、集団的に検討し分析をし、保育の質の向上や改善にむけての取り組みを行っています。次年度の年齢別指導計画等に、評価の結果を分析して取り組むべき課題を明確にしています。また次年度の事業計画のなかに具体的に反映させることで、事業の充実を図っています。

今後、就学前までの保育を見通して各年齢の保育内容と、「配慮を要する児童」を含む集団での保育について、専門家の協力を得ていっそうの学習に励まれ、職員集団として研修・検討の機会を作られることを期待します。

## - 3 サービスの開始・継続

- 3 -(1) サービス提供の開始が適切に行われている。

- 3 -(1)-	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	a
-----------	-------------------------------	---

- 3 -(1)-	サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a
-----------	-----------------------------	---

- 3 -(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。

- 3 -(2)-	事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a
-----------	---	---

## 評価機関コメント

入園のしおり、インターネットを利用したホームページの作成、園紹介のDVD、掲示板等、広く情報提供がされています。

継続利用者についても、毎年園のしおりが配布され、懇談会で丁寧に説明されています。

保育終了時には「なかよし会」に加入してもらい、卒園後の相談や卒園児の交流等を実施しています。

保護者負担の費用に関わる必要事項について保護者の理解を得るために、具体的な説明をして同意を得、文書で確認しています。

## - 4 サービス実施計画の策定

- 4 -(1) 利用者のアセスメントが行われている。

- 4 -(1)-	定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	a
-----------	--------------------------	---

- 4 -(1)-	利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	a
-----------	----------------------------	---

- 4 -(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。

- 4 -(2)-	サービス実施計画を適切に策定している。	a
-----------	---------------------	---

- 4 -(2)-	定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a
-----------	----------------------------	---

## 評価機関コメント

毎月利用者の個人記録を取り、一人ひとりの生活、遊びの中での様子、課題など明らかにしています。半期ごとの保育の総括を通して子どもの発達状況をきめ細かく把握し、成長を促す指導計画の検討について全職員でしています。保育の課題を確認して次年度の計画に活かされています。保育内容検討委員会、給食委員会、保健委員会、地域福祉委員会等を組織して職員の役割分担を明確にし、それぞれの責任者を決めて定期的に運営され、サービスの実施計画が検討されています。各委員会は具体的な活動に恒常的に取り組み、評価と見直しをしています。

## 児童福祉分野【保育所】のサービス内容基準(付加基準)

判断基準項目		評価結果
A-1 子どもの発達援助		
1-(1) 発達援助の基本		
A-1-(1)-	保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	a
A-1-(1)-	指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	a
1-(2) 健康管理・食事		
A-1-(2)-	登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	a
A-1-(2)-	健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	a
A-1-(2)-	歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	a
A-1-(2)-	感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している。	a
A-1-(2)-	食事を楽しむことができる工夫をしている。	a
A-1-(2)-	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a
A-1-(2)-	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	a
A-1-(2)-	アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	a
1-(3) 保育環境		
A-1-(3)-	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
A-1-(3)-	生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	a
1-(4) 保育内容		
A-1-(4)-	子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	a
A-1-(4)-	基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	a
A-1-(4)-	子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	a
A-1-(4)-	身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている。	a
A-1-(4)-	さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	a
A-1-(4)-	遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	a
A-1-(4)-	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	a
A-1-(4)-	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	a
A-1-(4)-	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a
A-1-(4)-	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a
A-1-(4)-	障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	b

## 評価機関コメント

保育過程に基づき、年間保育計画・月・週のそれぞれの指導計画が立てられ、日常の保育に具体化されています。

前期の保育のまとめを運動会が終わった頃に行い、後半の保育の見直しをしています。年度末には、「保育のまとめ」を出しています。「保育内容委員会」が設けられており、主任が中心になり各クラスの代表で構成されています。各々の職員が1年に1度は実践を書く事を大切に、テーマ及び企画については園長や事務長と相談して決めています。

登降園時・病気や体調不良時・応急処置・感染症等に関わるマニュアルが丁寧に明文化されています（職員ハンドブック）。特に感染症については「すみれ病院」との連携がはかられています。

給食内容には特に力を入れていて、献立表は幼児食・離乳食に分けて毎月発行しています。食材も添加物の少ない新鮮なものを選び、「薄味で手づくり」をモットーにしています。毎月の誕生食以外にも季節感溢れる・秋刀魚パーティー・焼きそばパーティー・豚汁パーティーなどを実施しています。子どもたちの育てた野菜の収穫を喜び合う企画として、皮をむく、切る、ちぎる等年齢に応じたクッキングも保育の一環として取り入れています。また、日本の食文化を伝えていきたいと考え「和菓子の日」を月1回設定し、手づくり和菓子を4、5歳は陶器のお湯飲みとお皿でいただきます。保護者向け調理実習もしています。

アレルギー児が安心して食べられるように、医師の指示書に基づいて代替食が工夫して作られています。また毎回の給食・おやつ時にはチェックシートがあり調理・配膳・保育・・・と3回のチェックを経て、誤食事故のないように配慮されています。

0歳から5歳までの各部屋には子どもたちの描画が掲示されています。どの子の絵も力強い線で描かれていました。絵を見るだけで何歳クラスの子どものかが分かるくらい生き生きと年齢の特徴を現した絵が見られました。また、どの子の絵にも子どもの思いを聞き取ったコメントが記されていました。

生活発表会が近づいているので、絵本の題材で身振り表現し、自分たちで考えた台詞に感情をこめて、みんなの前で演じあっていました。田植や稲刈り場面があるのですが、以前に農業体験をしたことも表現活動の中で生かされていました。それらの取り組みから、保育士が何を大切に子どもたちに伝えていきたいのか、どんな子どもに育てたいのかと言う視点や、担任の願いが伺えました。

園として、子どもたちに豊かな文化を育てたいと願って、太鼓・歌・リズム・体育あそび等専門家の協力も得て取り組んでいます。

園舎が狭いので屋上に芝生を敷き、遊具も設置し、子どもたちの活動の場として工夫されています。

夏には組み立てプールが置かれます。広い市民プールにも出かけます(5歳児)。

「ごっこあそび」の部屋も設けられており、園長はじめ職員の手づくりのままごとセットやおもちゃが整備されていました。子ども達のお気に入りの部屋になっています。

配慮を要する子どもについての保育の方法を、今後検討されると同時に必要に応じて専門機関との連携を強め、子ども理解を深められるような取り組みを全職員で出来る事を望みます。

## A-2 子育て支援

## 2-(1) 入所児童の保護者の育児支援

A-2-(1)-	一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	a
A-2-(1)-	家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	a
A-2-(1)-	子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	a
A-2-(1)-	虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている。	a
A-2-(1)-	虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	a

## 2-(2) 一時保育

A-2-(2)-	一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	非該当
----------	---	-----

## 評価機関コメント

家庭の状況や保護者自身の悩みなどには担任が相談に応じ、必要があれば園長・事務長が適切な対応をします。  
 個別懇談や面談の記録は児童表や懇談会記録簿に記録されていました。  
 虐待の事実があれば児童相談所に通報する事になっており、虐待マニュアルも整備されており、必要に応じて「虐待防止委員会」が設置されるようなシステムとなっています。  
 一時保育については、施設の関係で実施していませんので非該当になっていますが、同法人のすみれ保育園・すみれ乳児院に紹介するシステムをとっています。

## A-3 安全・事故防止

## 3-(1) 安全・事故防止

A-3-(1)-	調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	a
A-3-(1)-	食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている。	a
A-3-(1)-	事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取組を行っている。	a
A-3-(1)-	事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a
A-3-(1)-	不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a

## 評価機関コメント

日々の散歩は複数で行く事を原則とし、行き先及び行程を記入するノートが事務所に置かれ、その都度記入されています。また散歩時に必要な電話と笛の携帯も確認されています。  
 調理及び子ども達の喫食の状況は調理日誌に記入し、保存食の管理、手指の消毒が行われています。食中毒や衛生管理には細心の注意が払われていました。  
 事故や災害時のマニュアルも整備されていました。子ども達の避難訓練は想定される状況をいく通りか準備し、それに合わせて訓練が実施されています。

## A-4 子どもの発達・生活援助

## 4-(1) 子どもの発達・生活援助

A-4-(1)-	体罰等子どもへの不適切な対応が行われないよう、防止と早期発見に取り組んでいる	a
----------	--	---

## 評価機関コメント

職員ハンドブックの「大切にしていること」の中に「一人ひとりの子どもを尊重し、安定した生活が送れるよう心がけます。」とあり、また同ハンドブックの処遇憲章にも「子ども一人ひとりを尊重し、大切に育てていきます」と明記されています。職員間でも職員会議や、研修を通して学び論議しています。更に法人の就業規則の中に、体罰に関する項目を明記する作業に着手し、平成22年4月から実施の予定です。

## 利用者(保護者)への聞き取り等の結果

## 調査の概要

調査対象者	なかよしすみれ保育園保護者
調査対象者数	102世帯
調査方法	保育園で調査用紙を保護者に配布してもらい、評価機関に封書で直接返送してもらう。

## 利用者(保護者)への聞き取り等の結果(概要)

保護者102世帯中66通の回答が寄せられました。回収率は64.7%でした。アンケートの結果から長い歴史を持っている保育園に対する保護者の厚い信頼がうかがえました。

各項目はほとんどの項目でほぼ100%の方が「はい」と肯定的な回答しており、低いもので82%でした。

また、自由記述欄の記入が多いことも特徴的です。保護者が感じている「園の特徴」は、・アットホーム ・子どもの成長に合わせていろいろの事を経験させてくれる・こまやかに見てくれる・子ども中心・みんななかよし・子どもが楽しそう・ていねいに報告や連絡をしてくれる・保護者同士の交流がある・地域に密着した歴史があり、安心してお願いできる・手づくりおもちゃがたくさんある・遠足や行事が充実している・乳児の頃は特にていねいに見てくれている・手作りの給食が充実している・保育士との距離が近い・子どもも楽しみ、親も参加できる取り組みが多いのがよい、などおおむね肯定的です。

「園にしてほしいこと」の項目では・男性保育士を増やしてほしい・特別保育時(盆とその前後、正月前後)に給食を出してほしい・通常保育の時間を延ばしてほしい、延長保育料を下げしてほしい・諸費が安くなると助かる・帰りの挨拶はバイバイではなく「先生さようなら」という環境をつくってほしいなどの要求が出されており、今後の検討が待たれます。

「保育料を安くしてほしい」「就学までに子どもたちが小学校を見学できる機会を持ってほしい」などの意見もありました。

「園のことで感じたり、思ったりしていること」の項目では・幼児の保育がスタートして数年になるが、これまでどおりあたたかいまなざしをもった保育を残してほしい・保護者が参加する行事が多く大変だが、後々よい思い出を残してくれる園だと思う・親子で保育園生活を楽しんでいます、など保育園に対する厚い信頼が表明されています。

同時に保護者の願いとして・ベテランの保育士が少ないように思う・先生がとても忙しそうで心配・保護者会活動をもっと活発にしたほうがよいのではなどの意見が出されています。また、園の方針や保育内容に不満はありませんが、敷地が狭い。部屋の一部が廊下になっていたり、他の部屋を通らないと行けない等もっと空間を取ってほしいという意見もありました。

保護者からの要望や意見の中には保育園だけで解決できない内容もありますが、今後の課題として保護者とともに、これらの内容について意見を出し合い、検討していくことが、さらに地域に信頼され、子どもたちが豊かに育つ保育園への発展につながることを考えます。